宮城県文化財調査報告書第 30 集

東北新幹線関係遺跡発掘調査略報

昭和 48 年 3 月

宮　城　県　教　育　委　員　会
日本国有鉄道仙台新幹線工事局

序

日々にめざましい開発が行なわれる中で，これに伴なう自然環境や文化財の破壊に対して深い反省が求められておりますが，本県教育委員会は祖先の残した貴重な文化財の保護保存に，より一層努力してゆく所存であります。

今年度から，東北新幹線関係遺跡の調査が始まり，仙台以南の地区6遺跡の発掘調査および測量調査を実施してまいりました。

資料は現在教育庁文化財保護室で整理中でありますが，報告書ができるまでの間，県民のみなさまへの公開と今年度の業務報告をかねて，この調査略報を刊行するものであります。

調査にあたり格別のご協力をいただきました仙台新幹線工事局ならびに各市町村教育委員会，地元の方々に対し，心から感謝の意を表します。

昭和48年3月

宮城県教育長　**津　軽　芳　三　郎**

目　　次

Ⅰ．東北新幹線と関係遺跡の調査 …… 1
Ⅱ．調査遺跡 …… 2
Ⅲ．各遺跡の概要
1 内親引田遺跡 …… 4
2 安久東遺跡 …… 6
3 台の山遺跡 …… 8
4 葉坂戸の内遺跡 …… 10
5 岩切鴻ノ巣遺跡 …… 12
6 飯詰館跡 …… 14
Ⅳ．図　版

例　　言

1. 本書は，昭和47年度における東北新幹線関係遺跡の調査内容を，業務報告を兼ねて簡単にまとめたものである。後日調査報告書を刊行する予定である。
2. 遺跡の記載の順序は，原則として調査期日の早いものから行なった。
3. 本書に集録した図版の作成および内容の検討については，文化財保護室調査係員があたり，志間泰治と佐藤庄一が編集を担当した。

I　東北新幹線と関係遺跡の調査

昭和46年1月に入って間もなく，東北新幹線建設の動きがマスコミでさかんにとりあげられるようになり，この頃国鉄新幹線担当者から宮城県側に，予想されるルートを中心に文化財の所在する箇所を地図に図示してほしいとの申入れがあった。県は，白石市鷹ノ巣や名取市の西部丘陵一帯は現在史跡指定地にはなっていないが，重要遺跡であるので通過を避けてほしいこと，そのほかの遺跡も原則的には線引きの段階で計画からはずすようにし，直接影響ある場合には協議してほしい旨を添えて回答を行なった。

10月に入って東北新幹線路線の正式発表が行なわれた。それをみると申入れの趣旨がかなり生かされているが，未発見の遺跡のあることも予想されるため，路線が通過する21市町村の教育委員会の協力のもとに文化財保護室職員および地元研究者，考古学専攻の学生が路線敷および周辺の地を左右2㎞の幅で分布調査した。

その結果，159遺跡が新しく発見され路線敷内には30ヶ所もの遺跡が認められることが判明した。47年2月～3月にかけて，これらのうち10ヶ所について試掘調査を実施して，遺跡の範囲・性格・規模など本調査の基礎資料をまとめた。分布調査および試掘調査の結果は国鉄側にも通知した。

47年度を迎えると間もなく国鉄側から発掘促進の要望があり，5月には発掘の基本的事項についての話合いと，両者による現地踏査が行なわれた。7月に工事の進行計画を考慮して，年度内の発掘計画の策定と調査費に関する委託契約が締結される運びになった。調査費用は発掘調査分だけで1221万円である。県側の調査体制がなかなかそろわないことと，未買収用地の作物補償問題などがあって，調査の着手がおくれ，実際に調査を開始したのは8月8日である。調査開始期の遅れと，遺跡の内容が予想以上に豊富なことから調査予定期間が大幅に引延され，一応の目標に到達したのは厳寒の1月23日であった。

今年度調査した箇所は，測量調査もふくめて別掲の6遺跡になる。調査期間中に寄せられた国鉄新幹線仙台工事局，当該市町村教育委員会ならびに宮城県遺跡調査指導委員会委員の方々のご協力に対し深謝するとともに，各遺跡所在地内での調査員の陰の協力者としてお世話いただいた白石市高橋政一，遠藤ちや子，玉川栄，大河原町富川弘，川田勇，柴田町平間林，仙台市山下文夫，郷家弘の各氏のご厚意に対しても記して謝意を表する次第である。

なお，路線敷にかかる遺跡の面積は，遺跡全体の範囲からすればほんの一部であり今回の調査区の周囲にはかなり広く遺跡のあることが考えられるので，これらの保護についても関係各位のご協力をお願いしたい。　　(志間泰治)

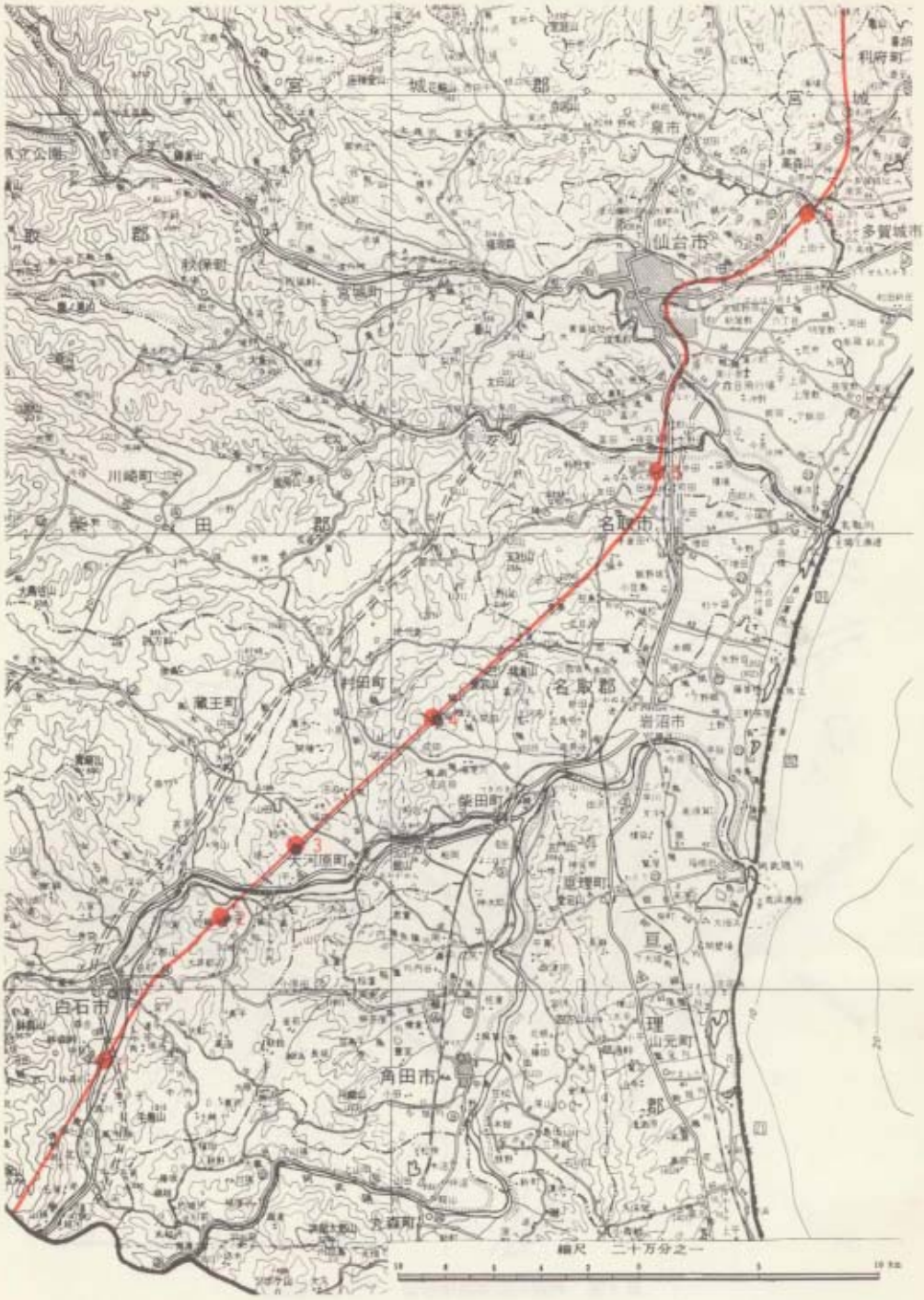
Ⅱ　調査遺跡

調査主体者　宮　城　県　教　育　委　員　会
　　日本国有鉄道仙台新幹線工事局
調査担当者　宮城県教育庁文化財保護室

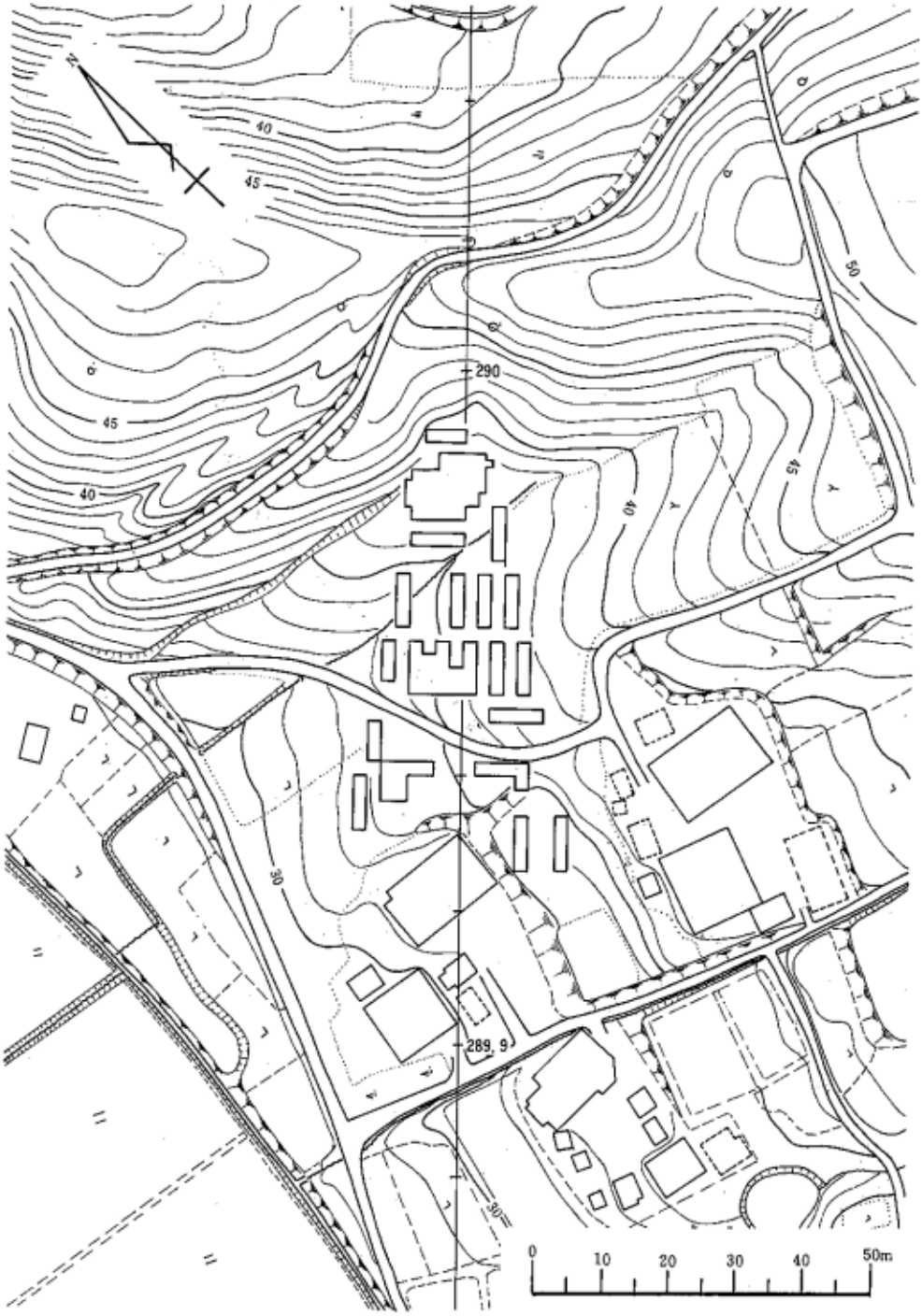
遺跡名	所在地	調査期日	参加者	遺跡番号
内親引田	白石市内親字引田	昭和47年8月8日 ～ 9月2日	秦　昭繁	2
安久東	仙台市中田町 字安久東	昭和47年8月23日 ～ 10月28日		5
台の山	大河原町金ヶ瀬 新開台の山	昭和47年9月5日 ～ 48年1月23日	秦　昭繁 山形大学歴史学研究会 (東海林次男ほか22名)	3
葉坂戸の内	柴田町大字葉坂 字戸の内	昭和47年11月7日 ～ 48年1月20日		4
岩切鴻の巣	仙台市岩切字鴻の巣	昭和48年1月8日 ～ 1月23日		6
飯詰館	白石市斉川字飯詰	昭和48年2月5日 ～ 2月25日	(測量) 東北地形社	1

文化財保護室調査関係者

調査係長　志間泰治
技術主査　氏家和典
技　　師　藤沼邦彦　白鳥良一　小井川和夫　佐藤庄一
嘱　　託　佐々木安彦　三浦圭介　斉藤吉弘
　　加藤　道男　丹羽　茂　加藤貞子
　　遊佐　二郎　田中則和　熊谷幹男



第１図　東北新幹線関係遺跡位置図



第２図　内親引田遺跡地形図・グリット配置図

1　内親引田遺跡（うちおやひきた）

1　遺跡の立地

内親引田遺跡は白石市街の北5.7㎞，内親部落の東1㎞にある。三方を標高200㎜の山地に囲まれ，北方を白石川が流れている。遺跡の標高約35㎜，山麓の緩やかな西斜面上に位置している。

2　調査内容

調査は路線敷内に南北66㎜，北側幅20㎜，南側幅40㎜のほぼ台形の調査区域を設定し，そのうち444㎡について発掘調査を行なった。その結果，次のような遺構と遺物を検出した。

縄文時代　縄文時代中期から後期の土器片小量と石鏃などが出土した。

平安時代　調査区の南側および北側において平安時代の竪穴住居跡が5軒検出された。

<第1号住居跡>南北3.6㎜，東西3.8㎜の方形の住居跡である。周溝および貼床が認められる。住居跡の南壁と東壁にカマドが検出された。南壁のカマドは上半を3個の甕(土師器･須恵器)でおおった煙道をもつ。また東壁のカマド両側に貯蔵穴と思われる掘込みをもつ。なおカマド主体部と周溝との前後関係により東壁のカマドが新しい時期のものと推定される。

<第2号住居跡>住居跡の両側が削平されているため輪郭がはっきりしてないが，一辺約2㎜の方形を示すと思われる。床面中央に石組の遺構をもつが，カマドや柱穴は検出されなかった。

<第3・4・5号住居跡>1号住居跡のすぐ西側にあり，三つの住居跡が重複の関係をもつ。検出順に第3・4・5号住居跡と呼ぶ。時期的には古い順に4・5・3号住居跡となる。4号住居跡は平面形の約3／4が3号住居跡によってこわされているが，残っている部分は，東壁3.8㎜，北壁1㎜，南壁1.5㎜で，東壁中央にカマドをもつ。カマドの両側に貯蔵穴と思われる掘込みがある。5号住居跡は3号住居跡と重なりあっている。南北2.6㎜，東西2.4㎜の隅丸方形を示す。3号住居跡によって削平されているが，東壁にカマドおよび貯蔵穴と思われる掘込みをもつ。床面は堅くしまっている。柱穴と思われるピットが4個検出された。3号住居跡は4・5号住居跡を切ってつくられており，3軒のうちでもっとも新しいものである。南側が耕作で削平されているため全体の輪郭は明らかではないが，残っている部分は北壁3.6㎜，東壁3.2㎜，西壁2.2㎜で隅丸方形を示すと思われる。ピットが6個検出された。

各住居跡内からは土師器・須恵器・鉄製品などの遺物が出土した。それらの中にロクロ成形による内面黒色土器が認められ，遺構，遺物とも平安時代に属すると思われる。

3　まとめ

内親引田遺跡は平安時代の集落跡であり，今回の調査により路線敷内に同時期の竪穴住居跡が5軒発見された。なお，遺跡の範囲は調査区の北側にさらに延びることが予想される。

(遊佐二郎)

第３図　安久東遺跡地形図・グリット配置図

2　安久東（あんきゅうひがし）遺跡

1　遺跡の立地

安久東遺跡は，仙台市街の南方約8km，名取川の氾濫原に形成された自然提防上に立地する。標高9mの微高地であり，現在は宅地と畑になっている。

2　調査内容

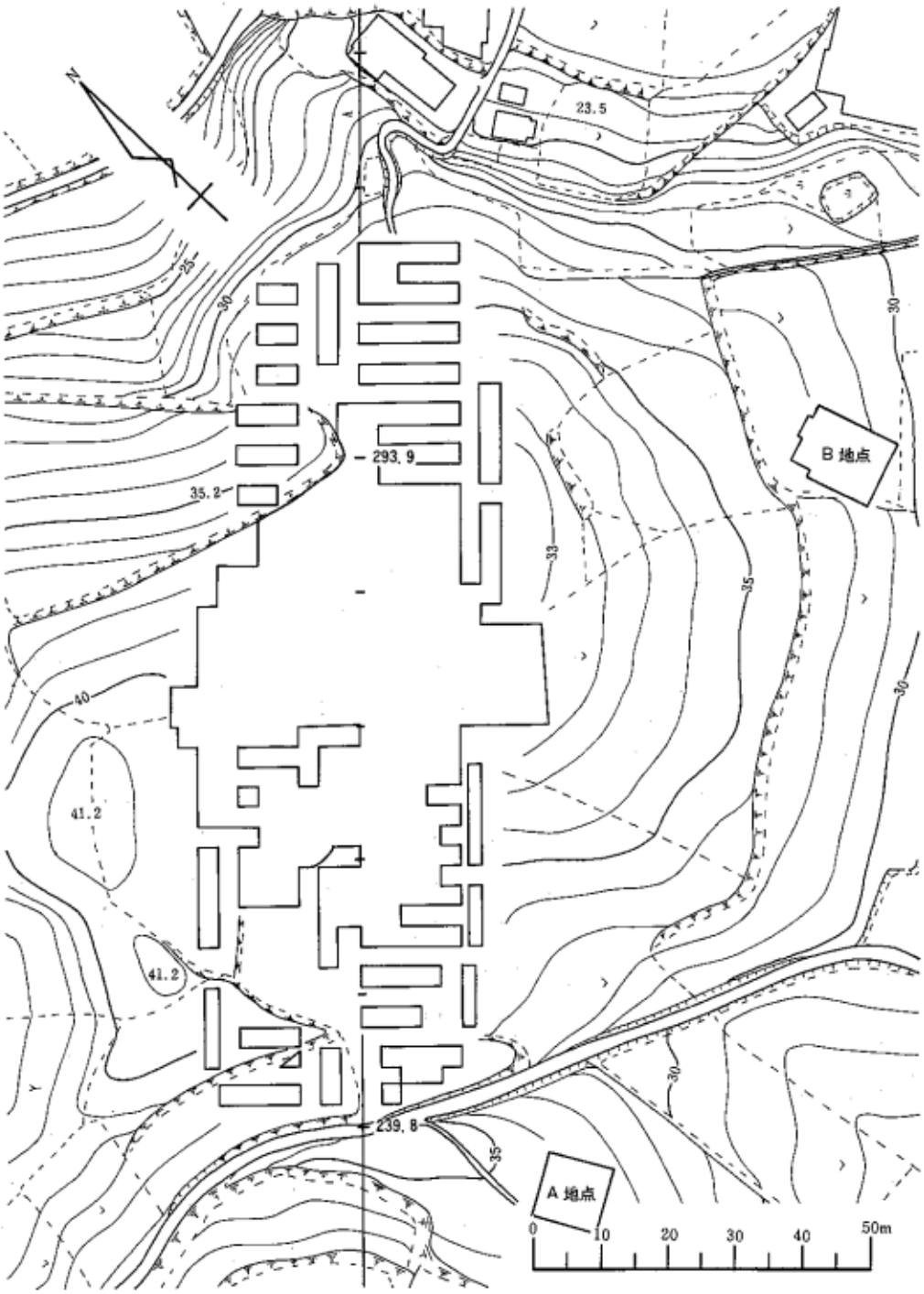
調査は，東北新幹線の中心杭に沿い，幅16m，長さ34mの範囲に一辺3mのグリットを設定し約305㎡を発掘した。遺跡の北東部は宅地になっているため，今回は調査できなかった。調査の結果，古墳の石室1基と溝状遺構4本が発見された。

古墳石室遺構　調査区中央に検出されたものであり，表土下20～30cmで，石室側壁石の上面に達する。石室は河原石でつくられており，長さ280cm，最大幅75cmのほぼ長方形を呈す。現存壁はもっとも高いところで約30cmあり，河原石を二段に積んだ石室下半部のみが残存していた。下段の石は広い面を，上段の石は小口を各々石室内に向けていて，全体としては，横穴式石室の形をとるが実際にはその機能をはたせるようなものではない。竪穴式石室から横穴式石室に移る過渡期のものか，あるいは横穴式石室の変形であろう。床面には，小石が幾重にも敷かれていた。副葬品は，直刀一振，くつわ一組，鉄鏃片若干，その他鉄製品若干と銅製の小リング状のもの一個である。石室が造られた時代は，石室の形態や副葬品などから7世紀後半頃と推定される。墳丘，周溝は確認できなかった。

溝状遺構　調査区全域より4本の溝状遺構が検出された。調査区域が限られているため，それらの規模は明らかでないが，発見順にB・C・D・E溝とする。B溝は最大幅1.8m，長さ29mの南北に長い溝で，断面はU字形を示す。溝の埋土より土師器・須恵器および中世陶器などが出土した。C溝はB溝によって切られており，幅0.6m，長さ8.2mの東西に長い溝で，断面は船底形を示す。D溝はB溝に直行する幅3～4m，長さ17mの大きな溝で，ゆるい傾斜を示す。溝の埋土より須恵器が出土している。E溝はD溝に直交する幅2.4m，長さ5.5mの大きな溝でゆるい傾斜を示す。溝の埋土より至道元宝銭や洪武通宝銭などが出土した。これらの性格は不明であるが，奈良・平安時代の条里制や中世荘園の灌漑用水路の可能性もあり，今後のこの地域の調査に待つところが多い。その他，調査区北西隅より焼土および，須恵器・土師器が検出された。この付近に平安時代の住居跡が存在する可能性をもつ。

3　まとめ

7世紀後半と思われる古墳石室の発見は，本地域の古代中小豪族の存在を示す。この付近の畑地一帯には未発見の古墳石室がなお埋没しているものと考えてよいであろう。(田中則和)



第４図　台の山遺跡地形図・グリット配置図

3　台の山遺跡

1　遺跡の立地

台の山遺跡は大河原町の西方2.8㎞，蔵王山系の東山麓にあり，舌状に延びた小丘陵の一つに立地する。遺跡の標高は30～40㎜で，現在は畑地や牧草地として利用されている。

2　調査内容

路線敷にかかる南側のゆるやかな斜面に東西45㎜×南北140㎜の調査区域を設定し，そのうち3,450㎡を発掘調査した。さらに新幹線工事のための送電用鉄塔の移転にともない，丘陵の南斜面の二地点250㎡を追加調査した。調査の結果，つぎのような遺構や遺物が検出された。

縄文時代　縄文時代早期末から前期初頭の土器と，石鏃・石匙などの石器が出土している。

弥生時代　弥生時代後期の土器片が少量出土している。

古墳時代　竪穴住居跡が3軒，溝状遺構が1本，および土坑が1基検出された。住居跡は方形を示し，一辺の長さが6～10㎜で規模が大きい。そのうち一軒は中央部の床面が焼けている。カマドはない。これらの遺構からは，壺・坏・高坏などの土師器および滑石を用いて剣や鏡を模した石製模造品などが出土している。出土品から見て，遺構の時期は古墳時代前半である。

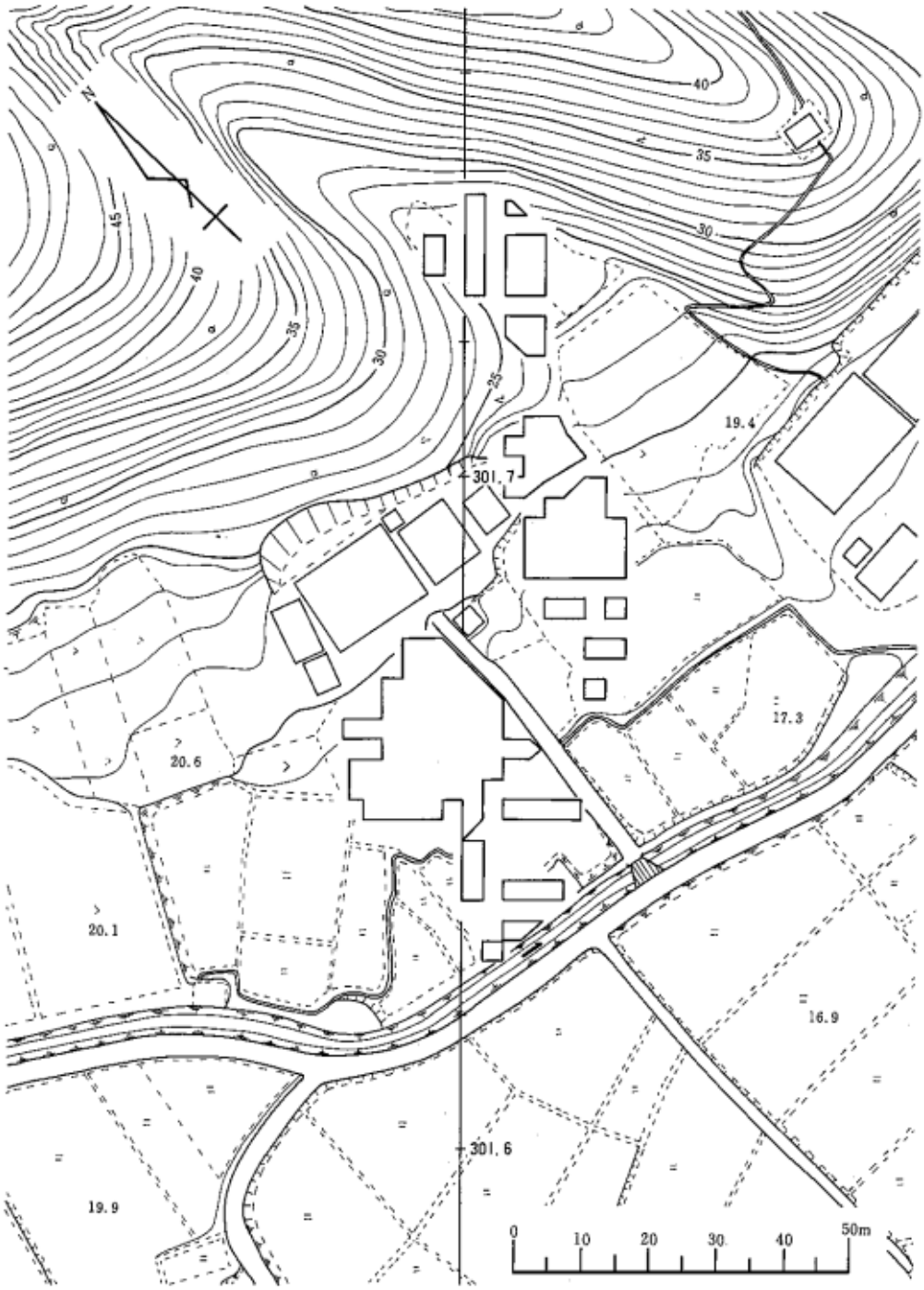
平安時代　竪穴住居跡が，調査区中央で13軒，丘陵東側で2軒発見された。一辺の長さ4㎜前後の方形を示し，周溝を持つものも3例ある。ほとんどの住居のカマドが煙道を備えており，その位置は丘陵の傾斜に対して高い方の壁にとりつけられている。またカマドの右脇ないし左脇に貯蔵穴と思われる掘り込みをもつ。柱穴は明瞭でなく配置も不規則なものが多い。これらの住居跡内からは，壺・甕・坏などの土師器・須恵器および刀子・鏃などの鉄製品が出土し，時期は平安時代のものと思われる。土師器の坏には墨書が認められるものも2点ある。

また調査区南側により掘立柱建物跡が3棟検出された。3棟とも3間×2間の建物で，柱間が桁行1.7～2.1㎜(約6～７尺)，梁間1.8㎜～2.4㎜(約6～8尺)で，各建物跡毎の桁行ないし梁間はほぼ等間隔である。1・3号建物跡は，掘り方と柱痕の区別がよく確認できた。2号建物跡と3号建物跡は重複するが，切り合い関係より時期的には前者が新しいと判断された。

さらに1号建物跡の付近に，直径40㎝前後のピットが4個検出された。内面が青灰色を呈し，強火を受けている。周囲からは多量の鉄滓および羽口が出土している。鍛冶場跡と思われる。

3　まとめ

台の山遺跡は縄文時代期から平安時代までの大きな集落跡で，今回の調査により竪穴住居16軒，掘立柱建物跡3棟，溝状遺構1条，製鉄遺構4基，土坑10基が検出された。遺跡の範囲は今回の調査区域以外にも広く延びることが予想される。　(泰　昭繁)



第５図　葉坂戸の内遺跡地形図・グリット配置図

4　葉坂戸(はさかと)の内(うち)遺跡

1　遺跡の立地

葉坂戸の内遺跡は柴田町の中心部から北西約4㎞の地点に位置する。この付近は大きな丘陵が南北にのび，それが幾つかの小丘陵に枝わかれしている。遺跡は東側にわかれた小丘陵の緩やかな南斜面に立地している。標高22m，現在は畑地と水田になっている。

2　調査内容

路線内に限り東西42m×南北123mの調査区域を設定し，そのうち約1053㎡を発掘調査した。その結果，次のような遺構と遺物を検出した。

縄文時代　縄文時代中期から後期の土器片少量と石鏃・石斧などの石器が発見された。

弥生時代　弥生式土器片少量と石庖丁の破片が出土している。

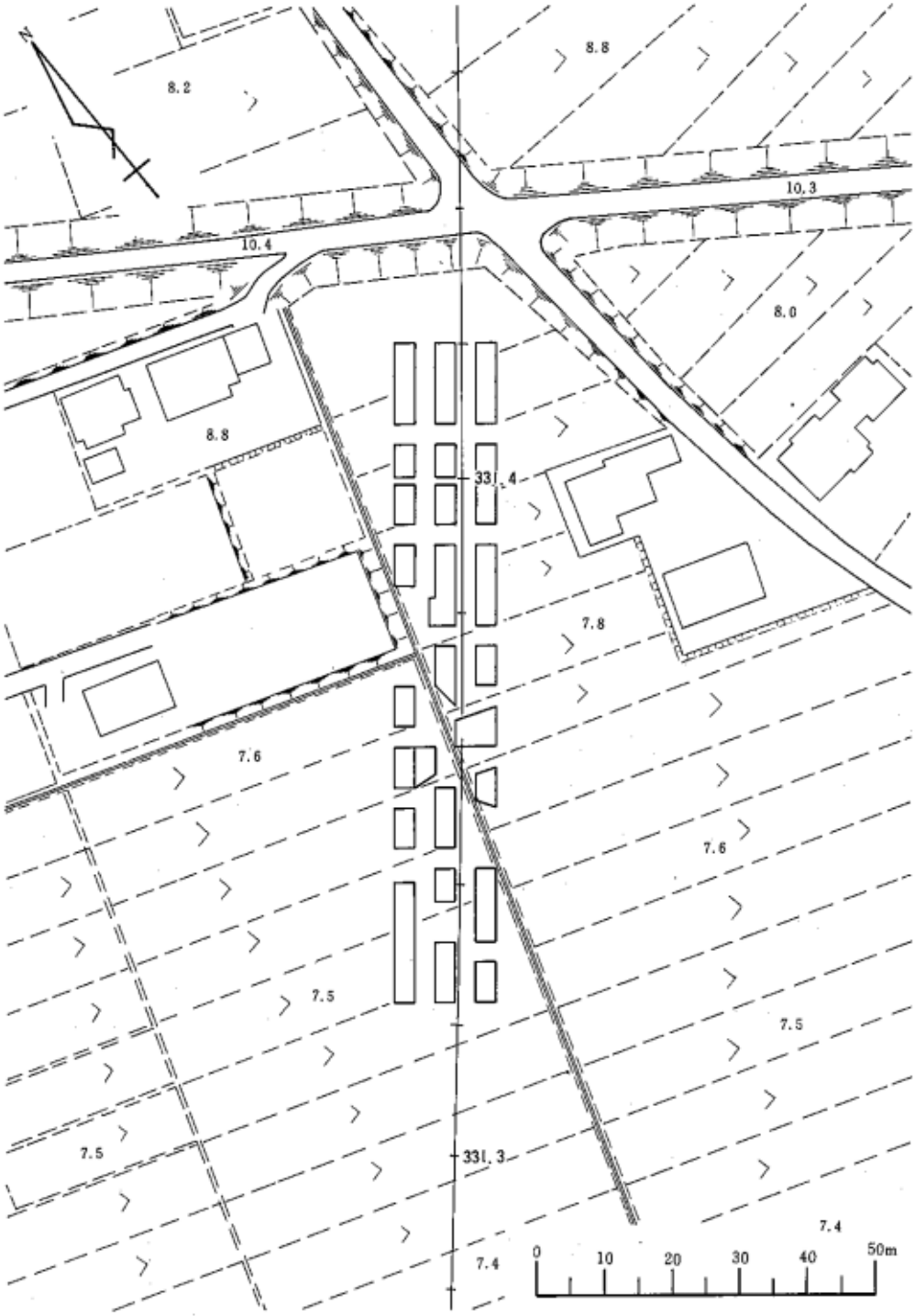
平安時代　調査区中央部において，竪穴住居跡が4軒発見された。第1号住居跡は，耕作により削平されているが，ピット配列や貯蔵穴状の掘り込みが検出されたことから住居跡と考えられた。第3号住居跡も同様に削平をうけているが，周溝と壁の一部が発見されている。第2号住居跡は一部削られているが南北4.3m×東西3.6mのほぼ長方形を呈する。床面には貼床がある。柱穴は不規則で，周溝がある。北壁西よりに煙道を備えた石組のカマドがあり，カマドの西側に貯蔵穴と思われる掘り込みがある。第4号住居跡は撹乱を受けているが，残っている壁から比較的大型の長方形プランと推定される。床面は貼床で，周溝が認められた。北壁に煙道を備えた石組のカマドがある。柱穴，貯蔵穴は不明である。各住居跡内より土師器，須恵器などが出土し，ロクロ成形による内黒土師器(坏)が見られることから，時期的には平安時代のものと思われる。また第2号竪穴住居跡の東側に，掘立柱建物が2棟検出された。第1号建物跡は東西2間×南北1間で，径25～30cmの柱痕が残っていた。柱間は桁行が約1.3m(約4尺)である。第2号建物跡は東西2間×南北2間の建物と考えられる。径15～20cmの柱痕が残っていた。柱間は桁行が約1.8m(6尺)でほぼ等間隔である。他にも柱穴があり，掘り方が認められたがその関係は不明である。

江戸時代　第2号竪穴住居跡の西側に，長径80cmの楕円形の墓壙が検出された。

そ の 他　時代不明の炉跡3ヶ所と石組の炉跡1ヶ所，焼土などが検出されている。

3　まとめ

葉坂戸の内遺跡は縄文時代中期から近世までの生活の場であり，今回の調査区以外にも東西にかけて遺構が存在すると考えられる。　(佐々木安彦)



第６図　岩切鴻ノ巣遺跡地形図・グリット配置図

5　岩切鴻ノ巣遺跡

1　遺跡の立地

鴻ノ巣遺跡は，仙台市の中心部から北東8㎞のところにあり，仙台平野の北東部を北西から東南に流れる七北田川によって形成された沖積平野に立地する。標高約8m，現在は畑地となっているが，周囲には水田が多い。

2　調査内容

本遺跡は路線敷内において東西15m×南北400mの範囲を有する。今回の調査は，このうち北側の15m×100mを対象とし約615㎡を発掘調査した。

表土下の黒褐色土層を50～60cm掘り下げると，数ヶ所で遺物が集中的に出土する面が確認された。各地点で遺物がごく狭い範囲から，ほぼ同レベルで出土することにより，遺構との関連が考えられたが，湧水が激しく，遺構の検出はおろか，遺物の確認自体が困難な状態となった。ただ1ヶ所，カマド状の遺構が検出された。これは前述の遺物のレベルよりもかなり高く，層位的にも1枚上の層より検出されたもので，湧水の影響は比較的少いが，写真の通り(写真16)常に水びたしの状態であった。形状は古墳時代後半から歴史時代にかけての住居跡に通常認められるカマドと近似している。「コ」の字状に，底面及び壁面が凝灰岩で構築されており，内部は奥行約60cm×幅約40cmで，熱を受け，赤変している。開いた部分の手前には約2m×2mの浅い落ち込みがあり，中には多量のスミが2層に重なって認められた。この遺構の右側に，ほぼ同形，同規模の遺構があるが，大部分が破壊されている。これら2つの遺構は，周囲を精査した結果住居跡に伴なわない可能性が大きいが，その性格は不明である。

出土した遺物は土師器が大部分である。坏とカメ以外の器形は未整理であるため詳細は不明でる。坏はほぼ完形のものが数点ある。平底で，口縁部が外反し内側に稜を有する。器面にはミガキがあるらしいが，保存状態が悪く，正確にはわからない。

3　まとめ

今回の調査は，全体面積の約4分の1を調査し，カマド状の遺構が2基と多少の土師器が発見された。遺物が集中的に出土した部分については，次回の調査で改めて精査を行なうことにした。

(加藤道男)

6　飯詰館跡

飯詰館跡は，白石市街の南北約3.5㎞，中斉川部落の東方0.5㎞の地点にあり，白石盆地にある独立丘陵を利用した館跡である。丘陵頂部の標高は95m，水田面との比高は約40mである。

測量調査を実施した結果，丘陵の斜面に4段から5段の平場が断続的にめぐっていることが明らかになった。南斜面中腹には部分的に腰廓がまわっている。丘陵全体を館として利用しており，丘陵の周囲にはごく最近まで水濠がめぐっていた。　(志間泰治)

図　　版

写真１　内親引田遺跡
遠　景

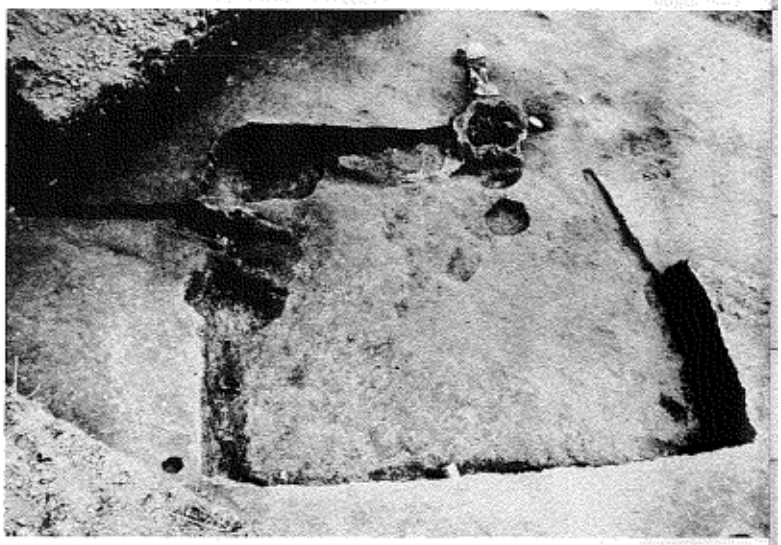


写真２　内親引田遺跡
第１号住居跡

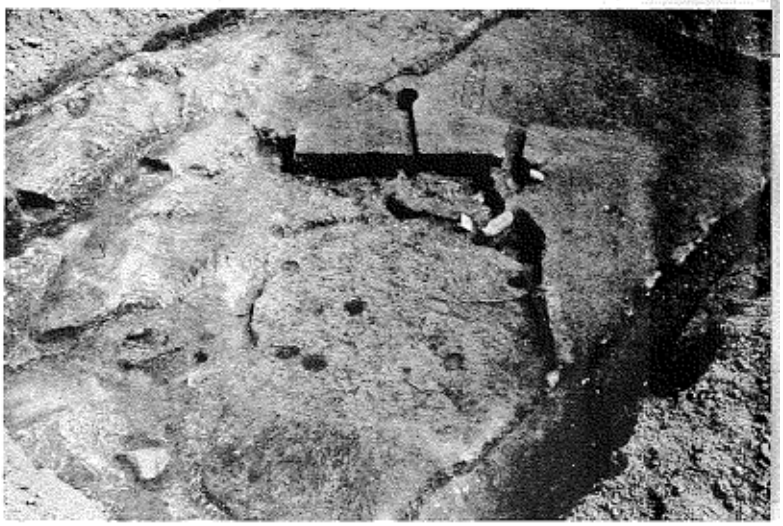


写真３　内親引田遺跡
第３・４・５号
住居跡

写真 4　安久東遺跡
発掘前の遺
跡の状況

写真 5　安久東遺跡
古墳石室遺構

写真 6　台の山遺跡
遠　景

写真 7　台の山遺跡
発掘状況

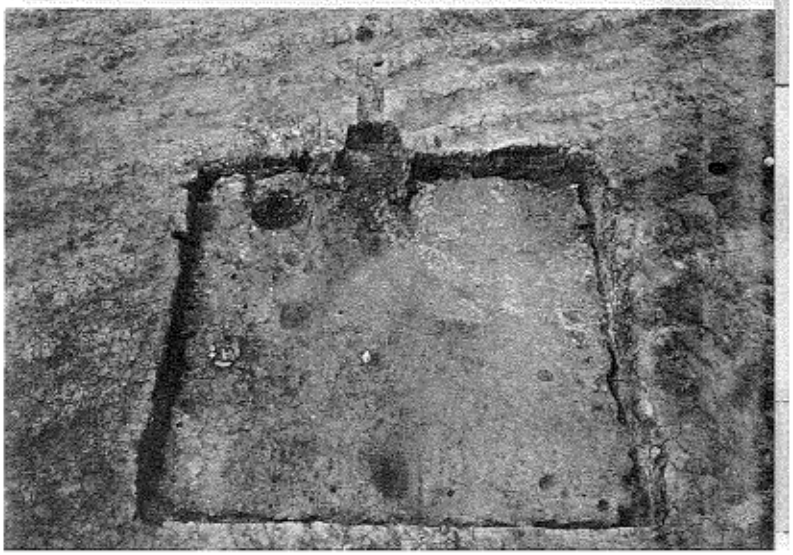


写真 8　台の山遺跡
第 2 号住居跡

写真９　台の山遺跡
第４号住居跡

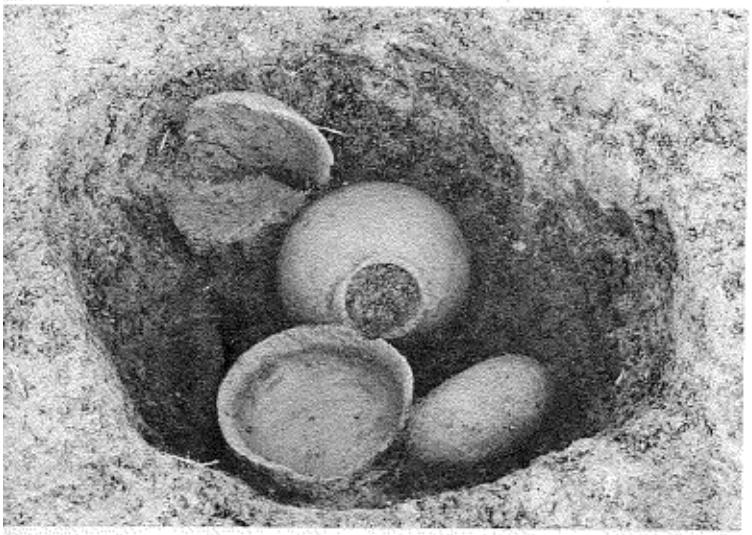


写真10　台の山遺跡
第５号住居跡内
ピット

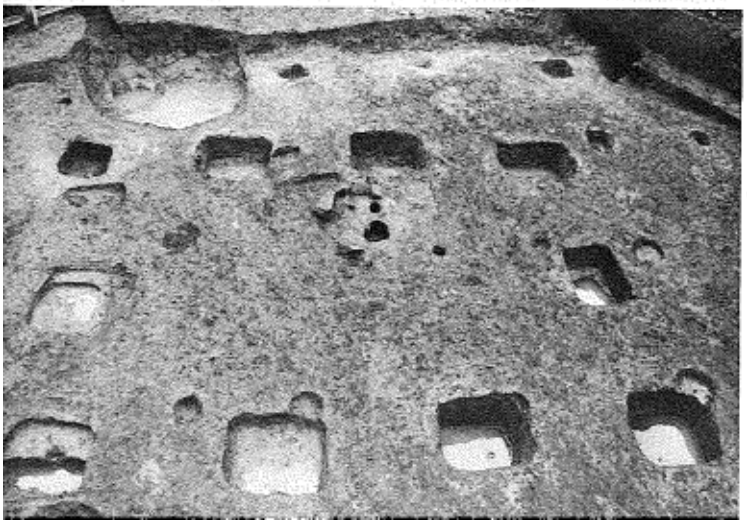


写真11　台の山遺跡
第２・３号掘立
柱建物跡

写真12　葉坂戸内遺跡
遠　景

写真13　葉坂戸内遺跡
第２号住居跡

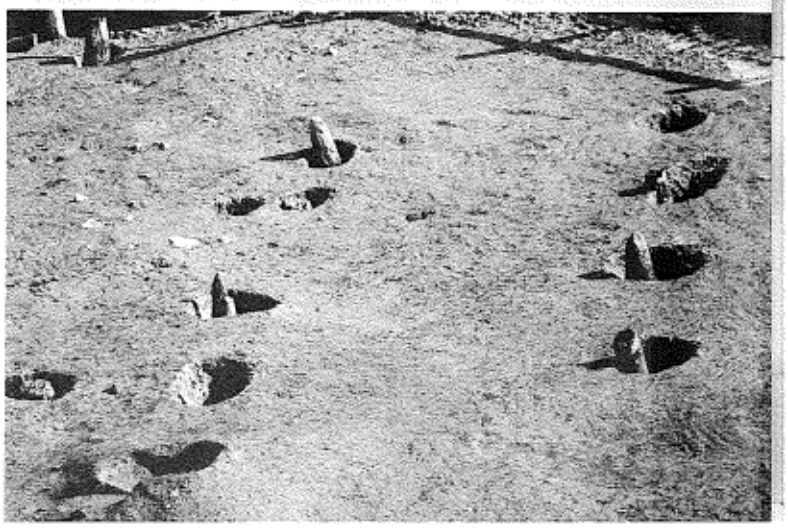


写真14　葉坂戸内遺跡
第１号掘立
柱建物跡

写真15　岩切鴻ノ巣遺跡
遠　景

写真16　岩切鴻ノ巣遺跡
カマド状遺構

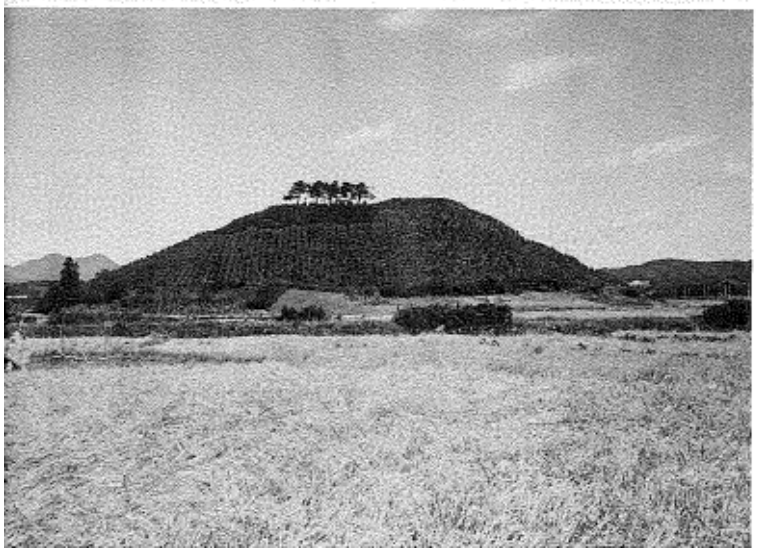


写真17　飯詰館跡
遠　景